

紹介

枚方市史 第一卷

いうまでもなく最近の都市開発のテンポはさまざま。歴史的遺産をはじめ何もかもを無視してすゝみつがある。京阪の要衝にあるここ枚方市でも例外ではない。開発を中心とした建設文化の渦中であって当然のことながら郷土に古くから伝わる歴史的遺産を確立するという仕事が極めて大事な緊急の課題となってくるし、最近の府県史、市町村史の仕事の多さもそれを物語っているといえよう。

この『枚方市史』も大阪・京都の衛星都市として発展していく枚方市の歴史をふりかえり、新たな認識を高めるものの一つとして着手されている。同市では去る二十六年三月にも市史を刊行しており、今回は町村合併による地域の変動や、市政施行二十周年ということにちなんで再び新しく編みなおされたものである。聞くところによれば

は本文編五巻、史料編二巻の多きに至るという。開発による破壊ばかりが眼につくこの頃、純粹に学究的な立場から枚方市を見なおす仕事が編纂委員諸氏、執筆者諸氏の手から生まれることを期待する次第である。

今度刊行された第一巻は次のような構成と著者である。

第一編 枚方の自然と景観

第一章 地形と地質（坂口慶治・大饗啓史氏）

第二章 地理的位置と行政区画の変遷（藤岡謙二郎氏）

第三章 地形区分と地域の特徴（同右）

第四章 自然的環境とその変遷（同右）

第五章 人口と集落の変遷（同右）

第六章 交通と村々との結びつきの変化（同右）

第七章 条里と集落移動（桑原公德・足利健亮氏）

第八章 農業水利と入会山支配（桑原公德・西田彦一氏）

第二編 枚方の遺跡と遺物

第一章 先土器時代（中山長三氏）

第二章 縄文時代（同右）

第三章 弥生時代（同右）

第四章 古墳時代の枚方（北野耕平氏）

このうち量的には全体の約三分の二が第二編の考古学的方面に向けられており、現に巻頭の写真には「消されゆく田口山堅穴住居址」がのせられているなど、最近の遺跡破壊の激しさに対する学問を通じての真摯な抵抗が十分に読みとれて嬉しさを禁じえない。ただ、巻末の遺物図版はコロタイプであったならはるかに見やすくまた正確であったろうことが残念である。

また量的に少ないとはいえ第一編の自然と景観に関する論考も一〜四章の自然地理的考察、五〜八章の条里制から近代の山論に至るまでの人文地理的考察と非常に豊富であり、京阪間の要衝ひいては日本の要衝たる枚方市の総合的・歴史的的位置を知るために必読の記述であろう。

全体のこの巻の構成をみて、とかく地

域史的になりやすいこの種の書物の枠を越えて各章の最初に枚方地方の全国的な位置づけをするなど種々の工夫がなされていることも注目されよう。

(A5判函入 本文四二六頁 図版多数
一九六七年三月 枚方市役所発行 非売品)

(井上満郎)

史学研究会大会 予告

◇十一月一日(水) 午前八時半～午後六時

《見学会》 湖東探訪

臨地講師 京都大学 教授

柴田実氏

賤カ岳・本願寺長浜別院・金剛輪寺・永源寺(バスにて巡回)

*参加ご希望の方は、会費七〇〇円をそえて、前もってお申込下さい。当日受付はいたしません。先着五〇名にて締切。

◇十一月二日(木) 午後一時～四時

史学研究会大会及び会員総会

演) 日本近代史の諸問題

東京大学 教授

下村富士男氏

(講) アジアの歴史世界と唐の性格

京都大学 教授

田村実造氏

◇十一月四日(土) 午前九時より

読史会・東洋史談話会・西洋史読書会 各大会

会員各位

史学研究会

委員会たより

◇五〇巻五号おとどけいたします。

次号をもって五〇巻が完結いたしますので次号には一〇五〇巻の論文総目録を予定しています。ご期待下さい。

◇刊行のおくれを、目下大いにおいかけしている次第ですが、会員各位の会費の方は、思うように追いかけてはいただけません。赤字の方は、速やかに完納下さいませよう、また前納にご協力下さいませよう、よろしくお願い申し上げます。

史 林 (第五〇巻第五号)

一九六七年八月廿五日印刷 定価三〇〇円
一九六七年九月一日発行

発行人 史学研究会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 小葉田 淳
振替京部五一五五番

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区西七条御所ノ内町五〇